

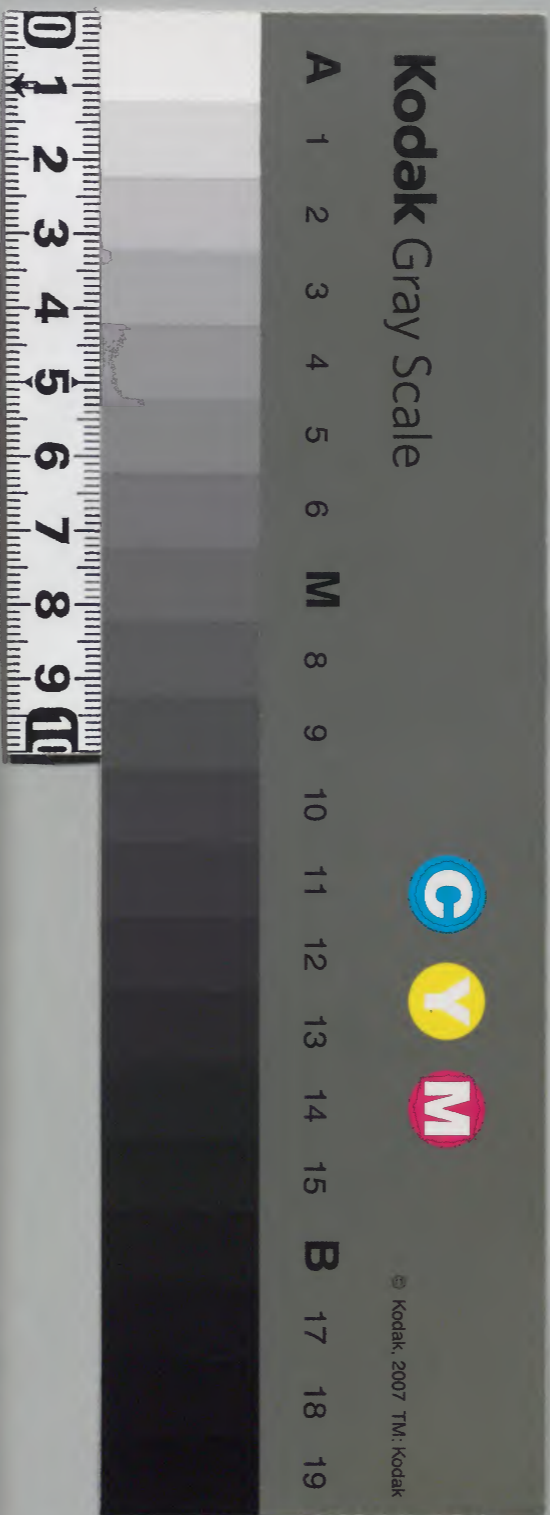
因幡志

二十二

和書門		類	
八	六	七	六
九	五	函	號
三	五	冊	架

內閣文庫		和書	
八	六	七	六
三	五	函	號
七	五	冊	架

內閣文庫	
番號	和 8676
冊數	35 (22)
函號	175 104



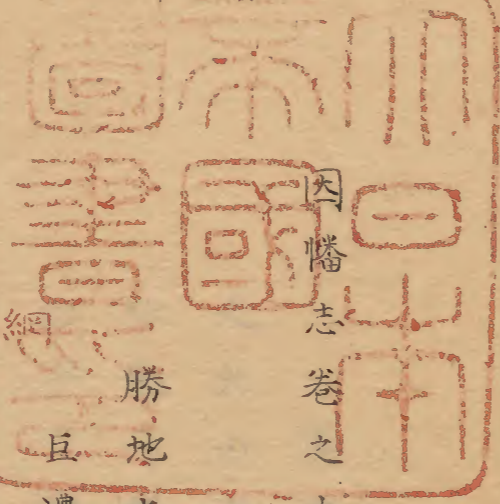
岡幡志

原六上

廿四

國郡志

廿四



國郡志卷之十三本

勝地之圖繪

巨濃郡

網代浦島山之圖

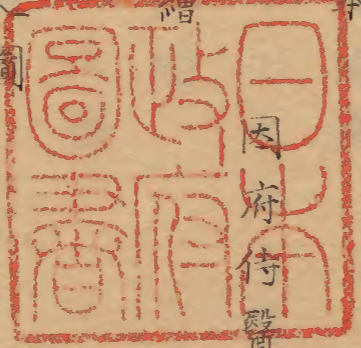
島根之水

法性寺村金山之圖

銀山村新間府之圖

鹽谷村金山之圖

栗谷村金山之圖



因府侍醫安陪惟親恭庵編



陸上村窟之圖

荒金山中國峯之圖

鸚鵡石之圖

濱名松下夜啼地藏之圖

牛峯藏玉推現之圖

氣多郡

普瀬井ノ清水之圖

舟磯窟觀音之圖

菱泊リ海涯之圖

廢迹礎之圖繪

大杉山滿願寺手水鉢之圖

弥勤寺塔礎之圖

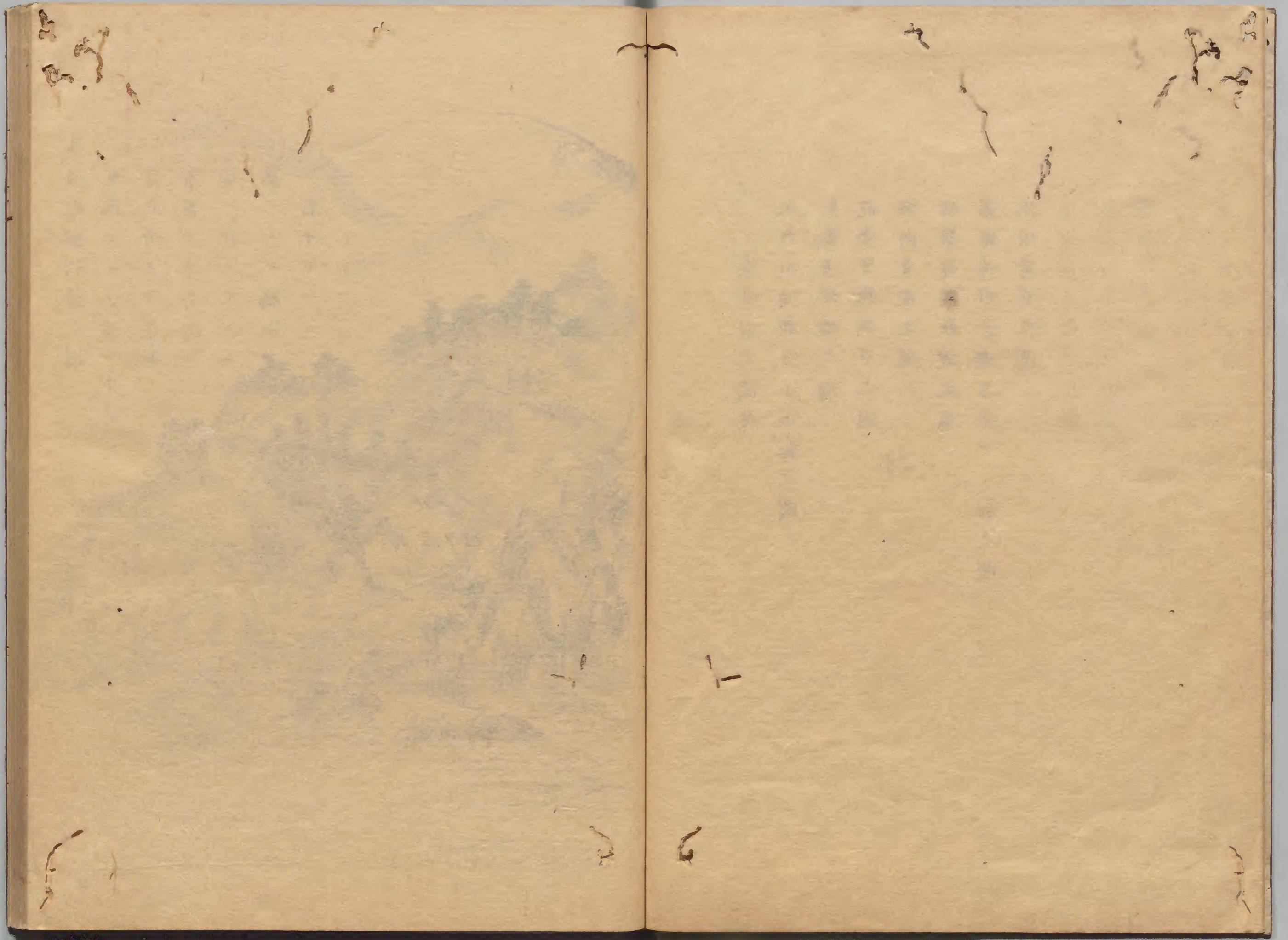
能登寺鐵硯石之圖

宝照寺礎之圖

法華寺門柱礎之圖

茶師寺塔之礎並イガリ松之圖

末用奇石之圖





巨濃郡網代浦之圖
寛政四壬子年四月廿日

岩戸浦ヨリ乗船シ
浦富ノ浦へ廻リ
舟ノ行クマ、ニ
画クレバ鳴山
ノ數十が一ニ
モアラス

村戸岩

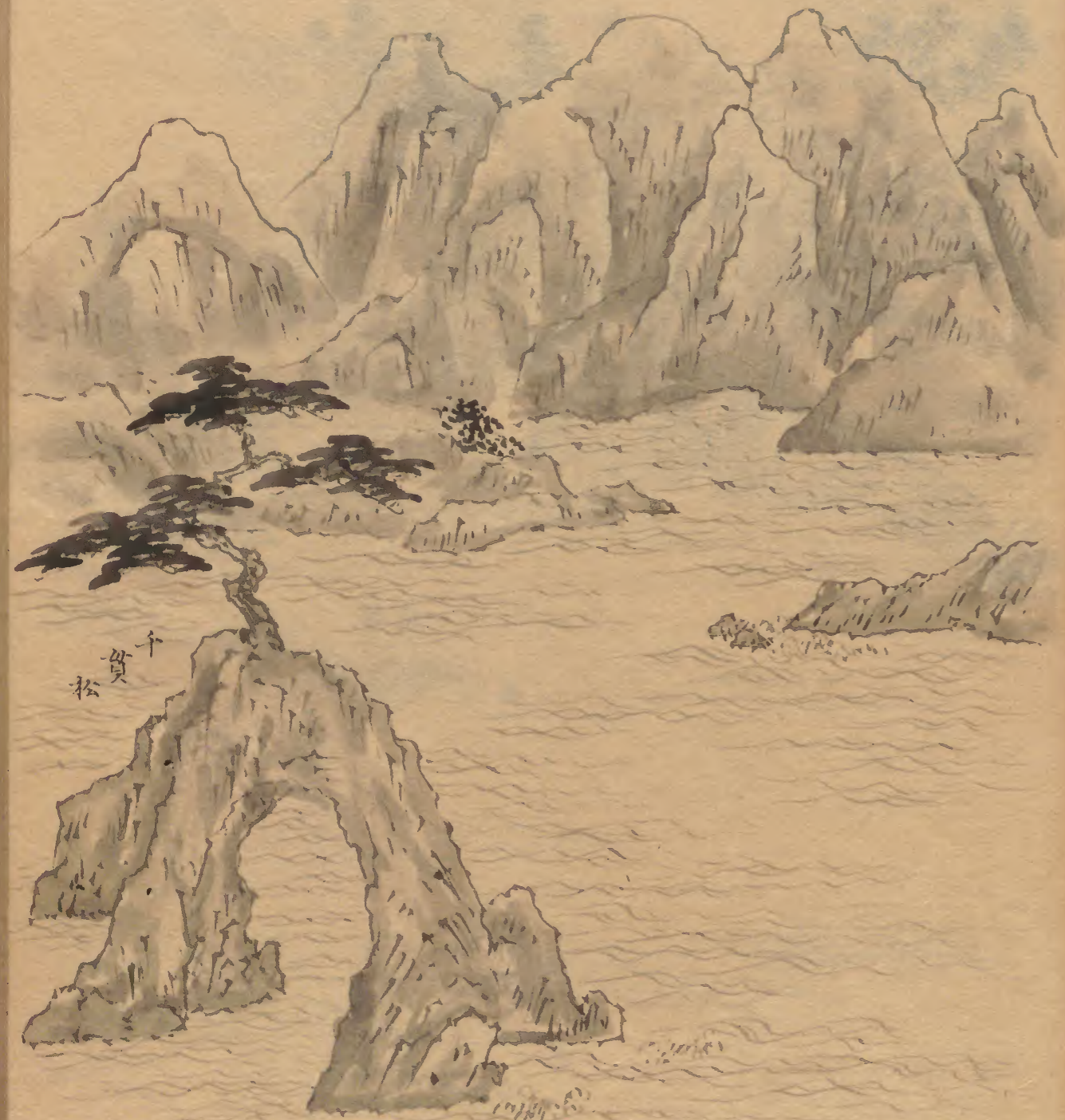


虚空藏山

其二



網代鼻



十
賀
松

三
其



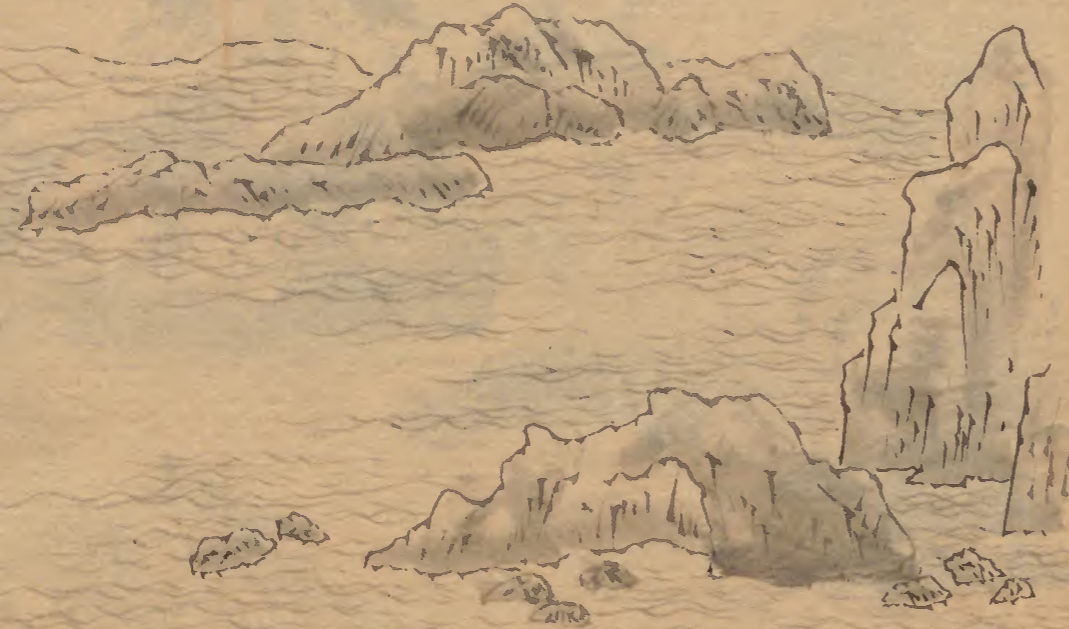


其
四



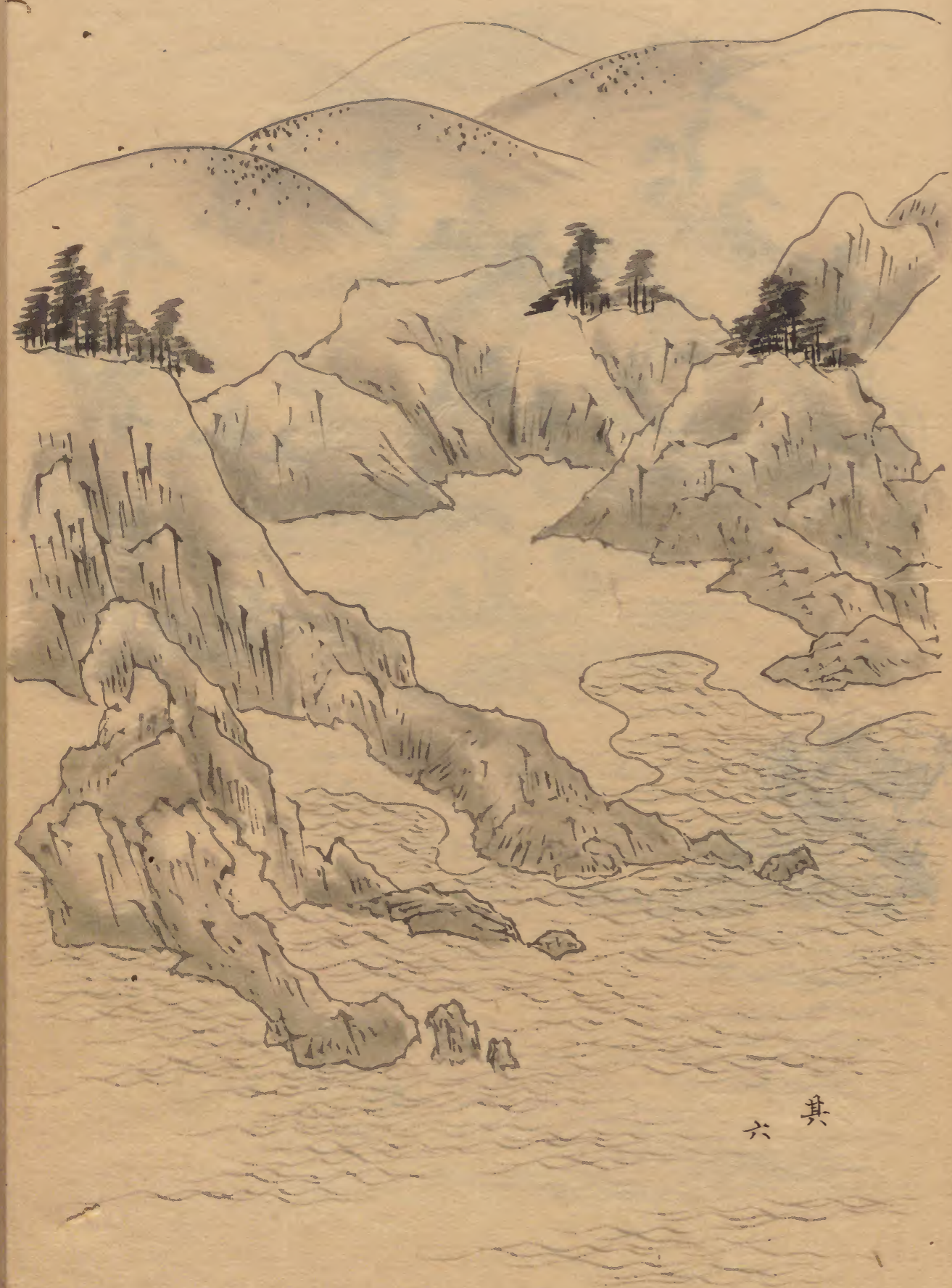
網代村

鳴
觀
音



其
五





六 其



是ヨリ
浦住ノ
浦

菜
種
鳴

宮鳴
ウシロノ
圖



其
七

濱浦住村

此圖ハ
舟ヨリ上リ
陸ニテ
画タルニ



右浦ハ名アル島山多ク天然ノ佳景ヲ備ヘタリ西ノ方海
中ニ突出タル絶岸ヲ虚空藏山ト云昔網代寺ノ境内ニテ
絶頂ニ虚空藏菩薩ヲ安置ス高サ數十丈岩下ニ洞穴アリ
水上高六間横四間真行十九間土人海賊穴ト云フ彼ノ但
馬ノ剛盜此ノ穴ニ窟居テ近縣ヲ乱妨セシトカヤ漁舟帆
ヲ掛ナカラ出入自由也側ハラヒヤゴ眺鳩島シメアリ巉巖十餘丈網代堆ツ墟ノ
巢アレハ名ク其岩根沖へ百余間ハ匍ハ匍ハ出タル所ヲ網代網代ガ
鼻トイフ午貫松ト号スハ岩頭一株ノ名木之幾世カ塩風
ニサラサレタル風情面白シ嶋根三ツニ分レテ鼎ノ足ノ
如ク其間ニ孤舟ニ棹ヲナラシ彼方此方ヘヌケ通フ北ノ
汀ニ聳タル千尋ノ巖ヲ兒落ト云テ次第ニ北へ廻レハ觀
音ミコト寫アリ水上等シク笠ヲ伏タル如クノ小寫ナリ大同ノ
昔網代網代寺ノ本尊此石上ニ出現シ玉ツナリ櫓ツ權ツヲアツレ



ハ佛罰ヲ蒙ルトテ渙入モ舟ヲチカツケス菜種嶋ハ陸地
ヨリ七十間沖ト云リ浦住ヨリ半腹ヨリ上ハ小松叢立ル
巒山之東面ニ菜ヲ生シテ暮春ニハ花咲乱テ燦爛タル氣
色一斤ノ黄雲海潮ニ浮ノリ是何ノ世ヨリ斯ナム太鼓鳥
ハ臺ニ飾レル胴太鼓ニ似テ打モ鳴サハ音モシツラハ風
情也碁石が和田ニハ黒ノ碁石アリ佛嶋ト云フハ佛ノ妙
軀上工ノ刻ル如ク七尊並ヒ立玉フ御衣ノ襷積々々迄モ
アリミミト拜レ給ヘリ其外平嶋鷗嶋大嶋小嶋象が鼻或
ハ抱レ或ハ負レ千狀万態書盡スヘカラス凡ソ西ハ岩戸
ノ鼻ヨリ東ハ田後浦住ニツバキテ荒磯ノ眺望言語ニ演
ガタシ

巨濃郡
本庄郷
島根水
之惣圖
別祿岩
井之水

武庫山

矢筈山



右模寫スル島根水本庄村西ノ山下ニアリ深サ三尺許リ
ノ廢井也是ヲ島根ノ水ト號シ又岩井ノ水ト云フ此地舊
襄海^{イハレ}ノ世ヲ歴^ルノ幾許^リマヤ海潮退平地トナル其井ノ側ニ
巨岩數多有テ海島ノ貌ナルモ其故ニテ島根岩井ノ名モ
爰ニ生スルナラム今ハ水涸^カテ掬^クスル許リナレ共州中名
ニカヘル名水ナリ島根之御湯ニ委シク記ス

同郡法性寺村
金山之圖



堀カケ

堀カケ

間府口高九一丈餘

横八九尺

真行

三四

右同



横間府

ケカ堀

逆間府

大同元年

四字障子二

彫刻ス

間府口高一丈

二三尺横一丈許

縁水

間府口高九一丈餘

横八九尺

右法性寺金山間府ハ蒲生ノ西向フ法性寺村ノ山中ニア
リ村ヨリ七町余リ山へ入レハ崖峩タル岩壁アリ左ニ二
ヶ処右ニ二ヶ所アリ左ノ一ツハ本ノ間府一ツハ逆府ニ
テ窟ノ口廣サ方ニ間許リ常ニ水湛々トシテ穴口ニ等シ
ク其色銅録ノ如シ深サ許リ知ルヘカラス其中ニ石ヲ投
入ルレハ水ニ逆テ下ル音サナカラ雷ノ夷ク如ク暫洞中
ニ響テ物凄シ向ノ方ニ差出タル岩石アリ大同九年ノ四
字ヲ彫刻セリト云フサレ共水湛テ常ニハ見カタシ左ノ
ニヶ所ハ金出カリシニヤ窟ノ深サ四五間ニテ止ヌ里諺
ニ昔此里ニ老タル夫婦ノ者アリ毎ニ但馬ノ國ノ商人未
テ其屋ヲ寄居トセリ或ル時其地爐ニ燒所ノ薪ヲミルニ
皆金精ノ湧レタルガ如シ商人是レ不思議ニトテ其地爐
ノ灰ヲ買求メテ飯リケルガ果シテ灰ノ中ヨリ金ノ飯モチカネヲ

得タリ是幾ノ年ヲヤ積ケム薪ヨリ樂レル金氣ノ徐々集
リ玉ノ如クナレルモノナルベシ商人重テ未リ其土地ノ
体相ヲウカバヒ見ル沙石ハ素ヨリ草木野菜ノ類マテモ
悉ク金ノ萌生氷柱ノ如ナリシカハ金山ナラム更テ察シ
テ初テ間府ヲ開キケルトゾ是レ大同年中ト云傳ヘタリ
此ノ金山ハ先ツ但馬ノ國ニ流布シケレハ其國ノ礦民ガカイ鑪カネ
戸ナド多ク未リテ堀ケル程ニ年久シク金ノ出ケルコト
夥シカリシトニヤ或時但馬ヨリ未掛リシ礦民トモ蒲生
嶺ヨリ金山ヲ打ノゾミ踏躡ノ煙ノ色ヲミテ金脈已ニ乏
シ竭事近ニアリト云ヒケルガ果シテ幾程ナク金モ出止
ミニケルトゾサレバ近代享保十六七年ノ比トカヤ鳥取
ノ町人糸屋某ト云者彼ノ古ル間府ヲ再興シテ堀ケルガ
銅日ヲ追テ出ケル間十余年ノ中ニ銅百二十馱調鍊シ

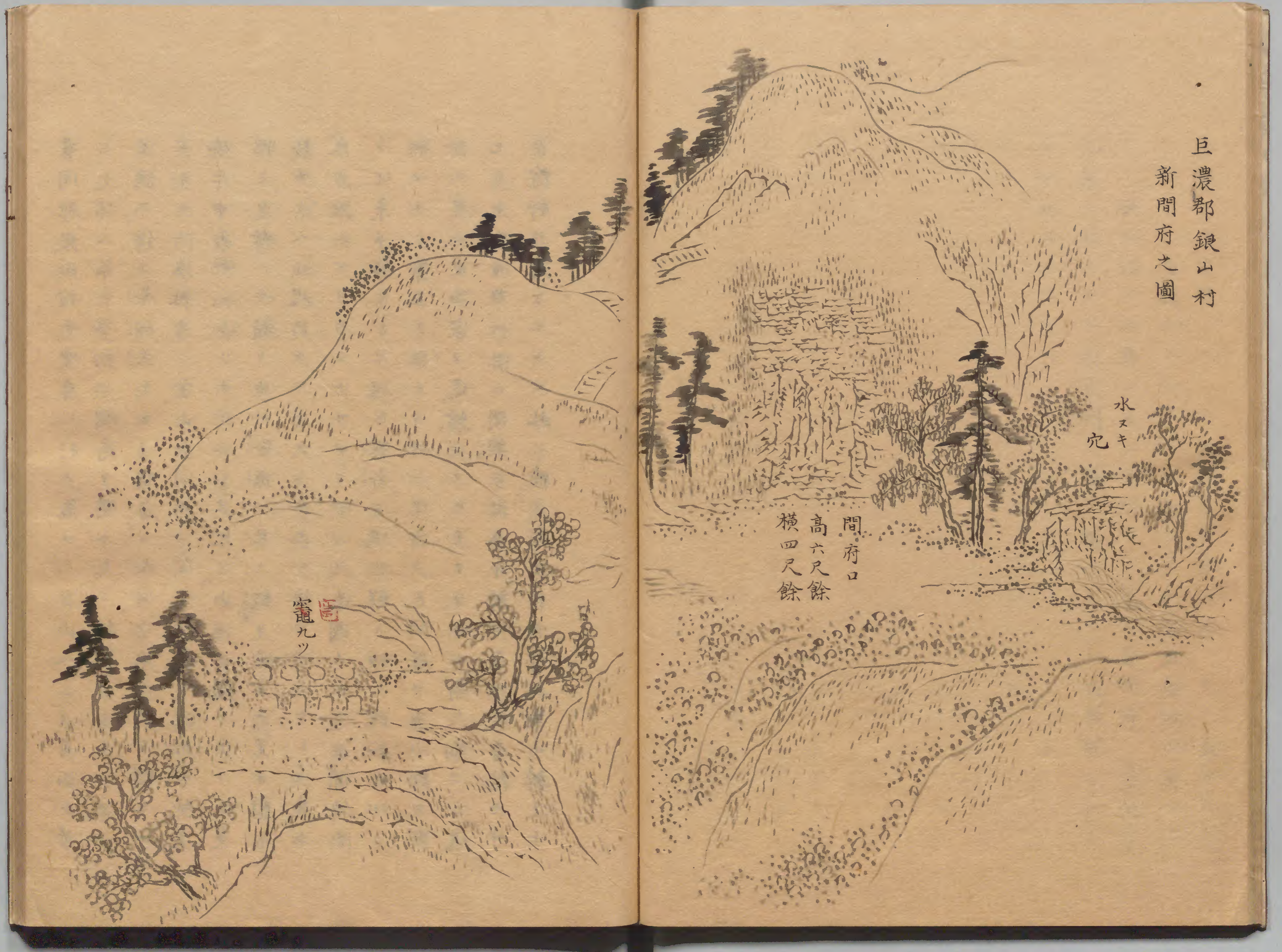
大坂ニテ交易シケルカ元安年中銅下直ニナリ益分ナカ
リシカハ其後止ケルト云ヘリ惣シテ此辺金銀銅山所々ニ
アリ塩谷村ノ山奥ニモ三ヶ所アリ是モ新聞府ハ享保十
九年ノ比トカヤ村民相ヒ議シ堀カケ、レ共事成カリシ
ニヤ止ヌト云ヘリ

巨濃郡銀山村
新間府之圖

水又
穴

間府口
高六尺餘
横四尺餘

竈
九ツ



右同郡銀山村新間府ハ村ノ後口ノ深山ノ三日月山ト号
ス文祿二年ノ冬初テ間府ヲ開キ大ニ行レケルト云ヘリ
里諺ニ傳フ茶臼立ト云フ間府ハ大同二年ニ始テ開ケル
トイヘハ法性寺ノ金山ト同時ニ開ケテ後久シク中絶文
祿年中再興シケルナルヘシ其比ノ山ニテ銀ノ出ケル夏
夥シク譬ヘテ積リナバ豎横一尺ノ飯道五六里ガ間ニ
敷ナラヘル程出ケルト云ヘリ土ヲ拵ヘ吹立ケレハ其土
大方銀ニナリケルトカヤカ、レハ遠國ノ人迄モ聞傳ヘ
々々来リ集リケル程ニ腥香ニ蠅ノ群ル如ク此谷ノ切り
詰メヨリ蒲生ノ下モマデニ里許リノ間谷々ニ小路ヲ開
キニ重三重ニ家ヲ建續テアルトアラユル商人細工人迄
ヒシト軒ヲ双ベケル間躰テ七八千軒ニ及ヘリ寺院モ十
ヶ所許リ有ケルトソ此ノ時ノ郡主ハ宮部兵部少輔トテ

鳥取ニ在城アリシガ今年高麗へ出陣アリシカハ留主居
ノ長臣宮部市兵衛ト云フ者諸事ヲ裁判シ惣構ニ掘リヲ
掘リ木戸ヲ建ソレミ、奉行人ヲ定メ非法ナキヤウニ下知
ヲ加ヘテ是ヲ守護シム扱次第ニ人多ク集リ運上銀ヲ増
シ山ヲ乞請道ヲカエ日夜ヲ不分掘ケル程ニ銀ノ出ケル
事又大倍セリ己ニ六七年ノ間如此ナリケレハ餘リ二間
府穴深ク掘入り人ノ出入モ自由ナラサリシカハ此所ヨ
リ二里許リ雨瀧ノ奥ヨリ水ヲ流シカケ山ヲ崩シテ掘取
ケルガ忽チ山崩シテ間府窻ツアレ人數多死ケルトナリ
其後又間府ヲコシラ掘リ入ケレ共以前ノ鑛脈ニアタ
ラガリシニヤ銀ノ出ル夏希クマ々昔ノ間府ニ掘アタ
レハ人ノ白骨髪ノ結髻ナド出ケルトソ今モ希クニ掘ル
者アレ共銀出ル夏之シ一人掘レハ一人ノ口分ニ充ルノ

ミニテ餘分無ケレハ遂ニ止ヌ近年銅モ出ケルナリ村ヨ
リ十王嶺ノ方へ行ケハ右手ノ山々八九分上ニ水ヲ盛リ
タル如ク横筋ノ通リケルコソ昔流シ山ヲシカケタル時
ノ川筋ノ迹ナリト云ヘリ

同郡鹽谷村
金山之圖



間府高
一丈餘
橫八九尺



此所
容易
行カクシ
間府
大廿不知

逆間府口徑
九六尺

同郡粟谷村
金山之圖

巨濃粟谷村

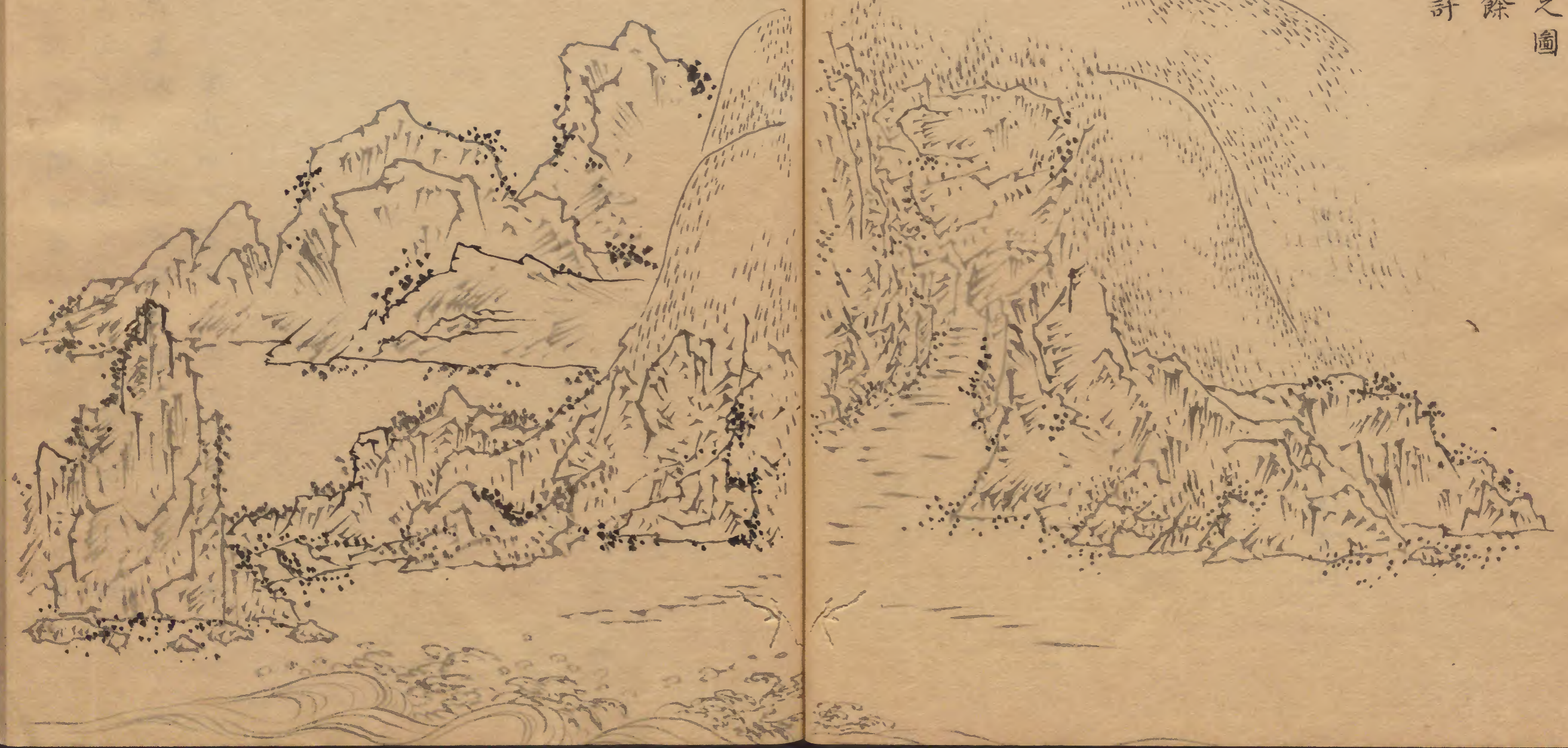
後ノ高山ヲ翬山或ハ武庫山ト云々寛永年中少しノ間金間
ヲ開キし山也ト圖西邊ニ此所ニ入ルベシ

巨濃郡陸上村窟之圖

窟口高凡二丈餘

同橫一丈二尺許

奧行不知



右巖窟ハ陸上坂ト村トノ間海濱ノ山鼻ニアリ穴口高サ
一丈餘奥行知レス穴ノ形天ユニアラス昔シ金ナト掘リ
シ間府穴ナラム先年此ノ穴ニ犬ニ足追入レケルニ一ツ
ハ行衛シレカ一ツハ摩尼山ノ穴ヨリ出ケリト云ヒ傳ヘ
タリ

巨濃郡荒金村之山中
國峯之圖



右ニ摸寫スル國峯ノ舊迹ハ巨濃郡ノ山中荒金村與ニア
リ新宮村ヨリ三十町余與之花表ハ荒金ノ下モ四五町ニ
在テ其レヨリ山上本社へ一里ト云ヘリ其間谷路十七八
町經テ山ノ神又辨助天ノ鎮坐アリ其所ヨリ與ハ山勢ノ
高峻ナル翠巒峩々トテ容易登ルヘカラス或提子ヒコ口クハ
返等其名トスル所尤ニシテ峻嶮ナリ漸シテマクニテ國峯ニ至
レハ山腹ニ行者堂及ヒ大日ノ小架アリ其地清峯ハカ喬タカク巉
巖聳ヘ四時蒼翠タリ淺遠テ人烟遠ク寂々寥々トシテ所
謂金峯釋迦ノ嶽ノ莽勢ニ髣髴タル絶境也扱國峯ト号ス
ルハ昔役ノ行者和州金峯山ヲ開基シ修驗ノ法ヲ修スル
行場ヲ定メ給ヘリ然ルニ四十二代文武天皇大寶三年行
者入唐ノ後百余年ニシテ金峯山ニ毒蛇生シテ人ヲ害スル
夏日ヲ逐テ盛ナリシカハ終ニ登山ノ道断絶セリ於此ニ

諸國ニ大峯山ヲウツシ是ヲ國ノ峯ト号シテ國中ノ山伏
大峯入ヲ表介シテ修行シケルトカヤ其後五代
宇多天皇寛平元年三寶院座主聖法僧正 詔ヲ奉シテ御
衣並寶劔ヲ賜テ即金峯ニ入テ惡龍ヲ退治シ再登山ノ道
ヲ開發セリト彼君形生記理源是ヲ以テミレハ國峯ノ起
レルヤ千歳余其廢スルモ千年ニ近カラム昔ハ法養郡ヨ
リ登山スルヲ本道トス今モ其里ヲ吉野トイフモ和州ニ
准テ也宇倍ノ山ニ山伏堂ト云フ旧迹アリ其レヨリ峯ヲ
越ニ谷ヲ凌テ此所ニ至レルナリ荒金谷ハ其嶺ツ、キノ
麓ナレハ大峯與通リ熊野越ナト云フニナゾラヘ熊野神
社ヲ勸請セリ新宮トイヒ院内ト呼モ其故之トソ中比ノ
戰國ニ猶モ修行者ノ道モ絶失セ堂宇モ破壊レテ荆棘ノ
廢地トナリ又然ルニ播州清水ノ山伏光林坊トカヤ云フ

先達ノ修行者歎之再真シケルト云サレド修理ヲ加フル
信心ノ者無ケレハ年経テ又破損シケルヲ近郷ノ農民發
願ノ衆カ以テ是ヲ建立セリ其レヨリツ、キテ堂舎モ依
然トシテ今ニ存在セリ然レ共參籠スル山伏モアラガレ
ハカ、ル旧迹ヲモ國中ニ知ル人モ亦希々ナリキ

石鹽 行者堂ノ側ノ石壁ニ生之其色白シテ白磬ノ如シ氣
味鹹丹ナリ按ル 本草綱目鹽ノ品甚多シ海鹽并鹽鹺鹽
池鹽崔鹽石鹽其外數種載之曰石鹽生_ス于石木鹽生_ス于樹蓬
鹽生_ス于草造化生物之妙誠難_シ彈_シ知_ル云又曰階州出一種石
鹽生_ス山石中不由煎鍊自然成鹽色甚々明瑩之彼人甚々貴
之云即光明鹽也ト此ノ所ノ石壁ニ生スル物是歟皆ナ食
鹽ナリ

臣濃郡石牛之圖



此所ヲ
上淵ト号ス
平地凡一町
四方

石面
凡一丈二尺
此角
正角
四方



相圖石
長三尺
横二尺
高九寸

相圖
凡一丈
二尺

臣濃郡鳥越村鸚鵡石ハ洗井村ヨリ奥へ十八町鳥越旁尔
ノ高山ニアリ其所ヲ上淵ト云フ山上方一町許リノ平地
ニ怪石アリ正面一丈二尺四方厚サ一丈二三尺之其石ヲ
相ヒ去ル莫十二間許リ此方へ相圖石ト云アリ長サ三尺
餘リ横二尺五六寸之其石ニ腰ヲ掛テ彼ノ大石ニ向テ言
イヘハ裕ノ應通スルコト向フニ人有テ答ル如シ因テ鸚
鵡石ト云フナルヘシ土人ハ是ヲ石牛ト云リ其故ヲ不知
按スルニ圓機活法第二十四石牛ノ莫ヲ載ル其詩ニ曰怪
石嵯峨トノ狀似牛ト此ハ牛ニ似タル石ナルヲ以テ斯作
ナルベシ此ノ所ノ石ハ唯々四角ニシテ牛ニ似タル事更
ニナシ是怪石ト云フ意ニテ其云フニヤ不審シ鸚鵡石ハ
伊勢ノ國ニモ有ル由此ノ類ノ石ナルベシ又鸚鵡石ノ少
下モノ山腹塩焼場トテ沙漠ノ地アリ昔鳥越長者ト云者

アリ宇治ノ長者ト中惡クナリ鳥越領ニ塩ヲ入レガリケ
レハ土人難儀ニ及ヒケル是ニ因テ鳥越長者此所ニ潮ヲ
汲セ塩ヲ焼セケルトゾ其時ノ塩濱ノ跡ナリト云傳フ其
アル莫モアリシニヤ漱幽タル高山ニ沙漠ヲ積ケルモイ
ト不思議ナリ昔ハ此所ニモ民家アリシ由此ノ下ノ平地
ヲ下淵ト云ヘリ山腹ナレ共廣キ野原ナリ

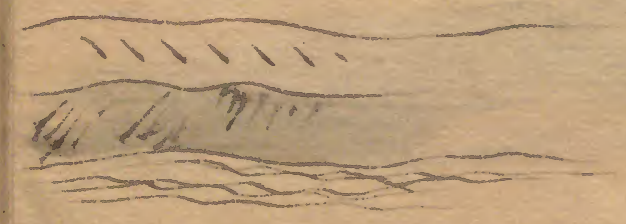
巨濃郡夜啼地藏之圖

木像

長二尺二寸五分



道列但





浦住
牧谷ヨリ
羽尾へ
通ル路
即子・
但馬海道ナリ



地藏堂

沙漠
右、地藏
此堂ニ安ス

羽尾道

巨濃郡牧谷ヨリ羽尾へ通ル路濱名松下ニアル地藏菩薩
ハ土俗鳥取品治村ノ地藏今景福寺後ノ小路ノ側ナリ
所土民ト一對ニテ顯ル古佛之ト又小兒ノ夜泣ヲ治玉フ
丁奇妙也トテ近郷是ヲ祈リ松ノ節ヲ削取テ小兒夜啼ス
ル時火ヲ燈シミスレハ忽チ止ムト云傳フ

金鳥山 牛峯寺 藏王 現權 之 圖

アム石
此山長者屋敷
ヨリ余程
右ニアリ

因幡領
巨濃郡

鳥越長者屋敷

鳥越殿
要客

幡ヶ谷
陣前

鳥子村

此城鳥越ヨリ奥ニアリ
天正年中
秀吉公
牛峯
十二坊ヲ築ク
時此山ニ
御在陣
山ノ名
高尾山

但馬領

十一面観音
ミクラシ

上ノ山

垢離取

古鳥越

本社ヨリ町

七曲坂

勝牛
藏王
子寺

本社ノ平地
奥行七間
横十二間
中ノ壇平地
下壇平地
奥行八間
横六間

神木殿
泉水

金鳥山
牛峯寺

幡ヶ谷出張
土俗陣カコセト云

此谷隘
但州旁郡

此峯
通リ但
因幡
領

因幡領
山ノ後ハ
但馬領

鳥子出村
クワガイ

此碑ヨリ鳥越
十六町

右鳥越
峯

此碑ヨリ
蘇嶋マテ
五町

洗井内燕嶋

在リ因
但ノ境
因テ西
國祭之云

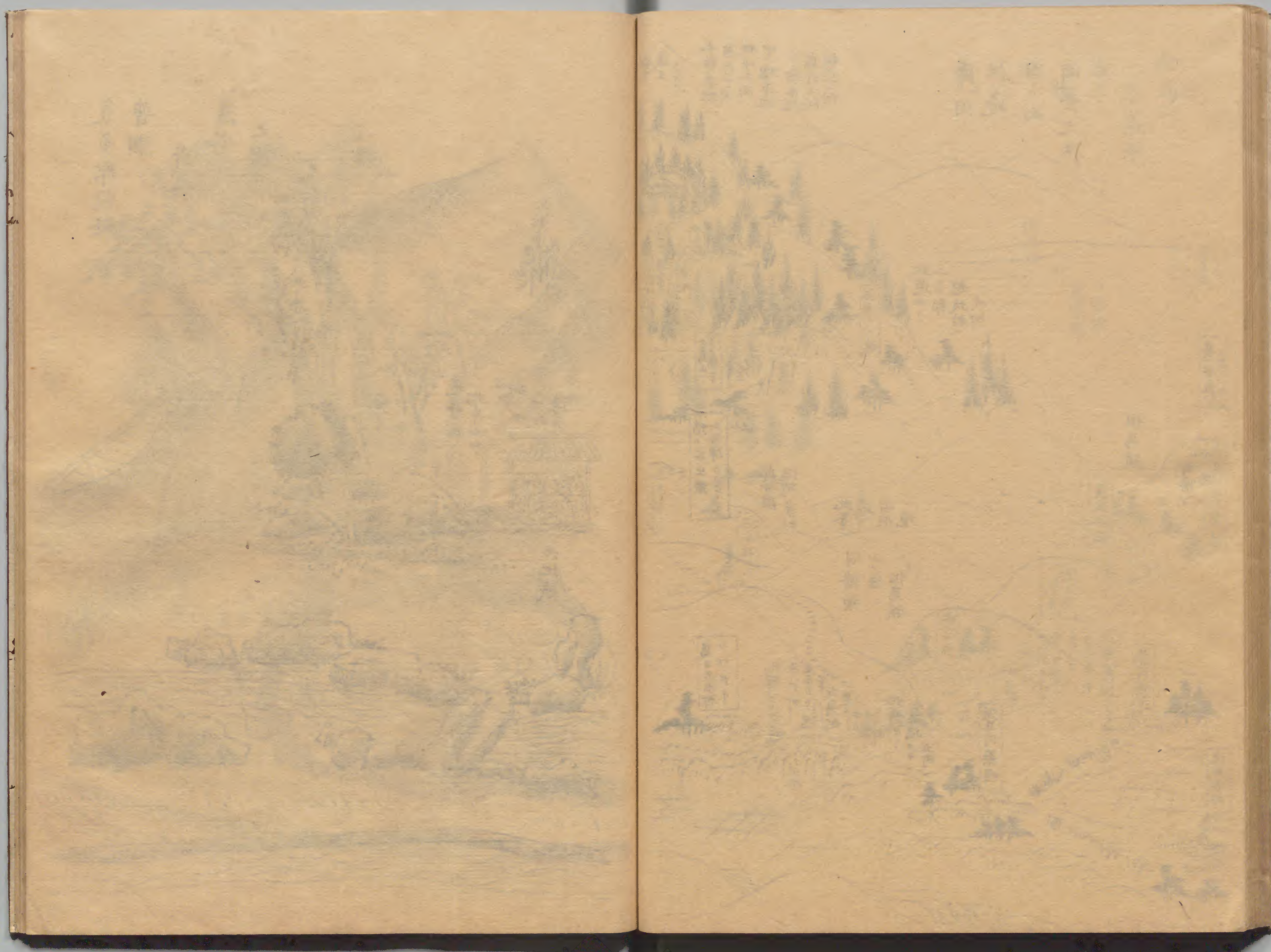
但馬領

長谷奥
高ハル山

因幡
領

洗井内横道

洗井本村



氣多郡殿村
普瀨

清水
之圖

八階
山



廢井ノ
中ニ
磁石
アリ
龜井氏
此井ニテ
刀ヲ
研シト
傳フ

六地藏

一軒家



不動
地藏

水口

周
田
三十
七步
深八九寸
或六尺

右普瀬井之清水ハ村ノ上外ニ町許氏神八幡宮山ノ麓ニ
 アリ廣十疊許深サ一尺余ノ清水ノ井是ナリ山下ノ岩根
 ヨリ湧出ル水勢恰モ地中ニ川アルカ如シ潔白ナル事底
 ニ徹シテ水無キガ如ク冷寒ナル事夏ノ日人此ノ井中ニ
 歩ミメクル事三遍スルモノ希ナリト云フ四時水ノ増減
 ヲ知ラス流下大坂谷ノ田土ヲ養フ事半ニ過クト近世亀
 井武藏守殿此ノ水賞翫セラレ側ニ涼亭ヲ設ケ夏月ニハ
 日コトニ納涼アリケルカ井ノ本ノ築石ニ心ヲ盡シ自ラ
 手ヲイレ物好シ玉フト扱又一間許右ノ方何方四尺余ノ
 廢井アリ中ニ長サ二尺許リノ自然石アリ是ハ亀井殿未
 タ新十郎タリシ時此ノ石ニテ刀ヲ礪戦功ヲ勵マレケル
 トソ土俗ニ婦人ノ乳汁出ガルモノ此井後ノ溝ヲサラエ
 テ側ナル石地藏ヲ祈レハ乳出ルト云テ諸人信仰ス

氣多郡八幡郷船磯村窟觀音之圖

舟磯村ノ山岬ニアリ坂道

四五十間登リテ一ツノ洞穴

アリ口ノ方ニ間許リ昔ヨリ觀音ノ

住所ト云ヒ傳ルノミニテ窟中ニ

佛像ナシ奥深サ六七尺許内暗シテ

ニエズ堂ノ左ノ方ニ如圖繪ノ

連理ノ山椿アリ此外事繁多ナルハ

爰ニ略ス委ハ郡郷部ニ記ス

長尾崎
 海へ出ル
 所ニ數十
 町也



連理之椿樹根本
 右回リ一尺八寸許
 左回リ一尺四寸余
 高廿二間余
 二樹雙上生タル
 其間八寸許土
 際ヨリ三尺四
 寸許リ上テ左右
 差合セタル
 有様貫水ヲ
 ヌキタル
 如ク珍木
 ナリ



長尾坂ノ道

舟磯村

九
 十軒

舟磯ノ鼻
ヨリ青屋ノ方へ
引田シテ七十町余



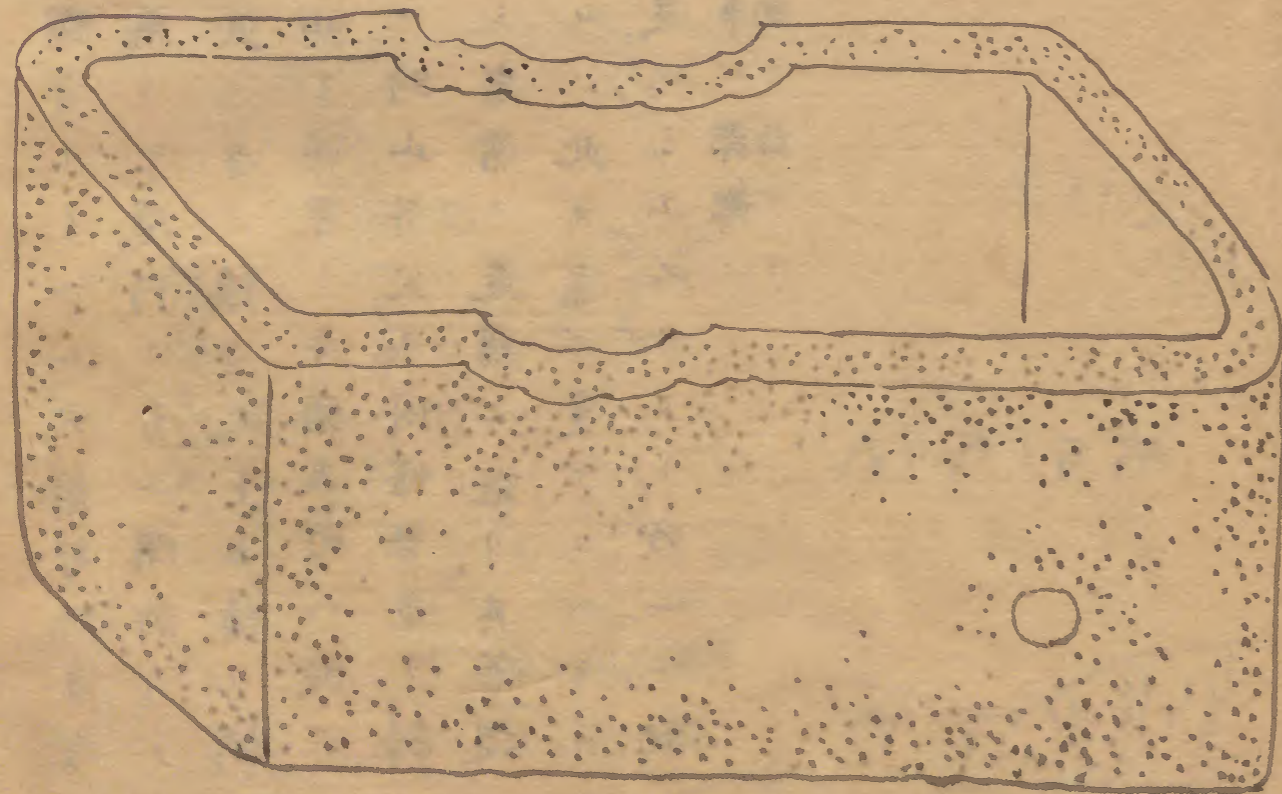
同郡隻泊リ
之圖



右夏泊村ハ潮津ヨリ十八町良ノ方長尾鼻ノ谷隘ニアル
 漁村ナリ潮津ノ支村トス此村ノ初ハ亀井武藏守殿ノ時
 筑前國ヨリ漁父一人未住シテ其ヨリ相續ノ櫛場トナレ
 リ孤村ナレト今ハ民家三十軒ニ余レリ當村濫觴ハ此所
 ハ東舟磯姫路西ハ潮津芦崎ナリ其間東西相去ル事纔ニ
 十餘町ナリ然レト海涯ノ孤村ナル故ニヤ惣シテ人ノ風
 俗剛毅水訥ニシテ一向別世界ノ如シ

巨濃郡満願寺谷
 満願寺手水鉢

長六尺五寸
 横二尺九寸
 高二尺一寸
 深内法一尺二寸
 厚四寸

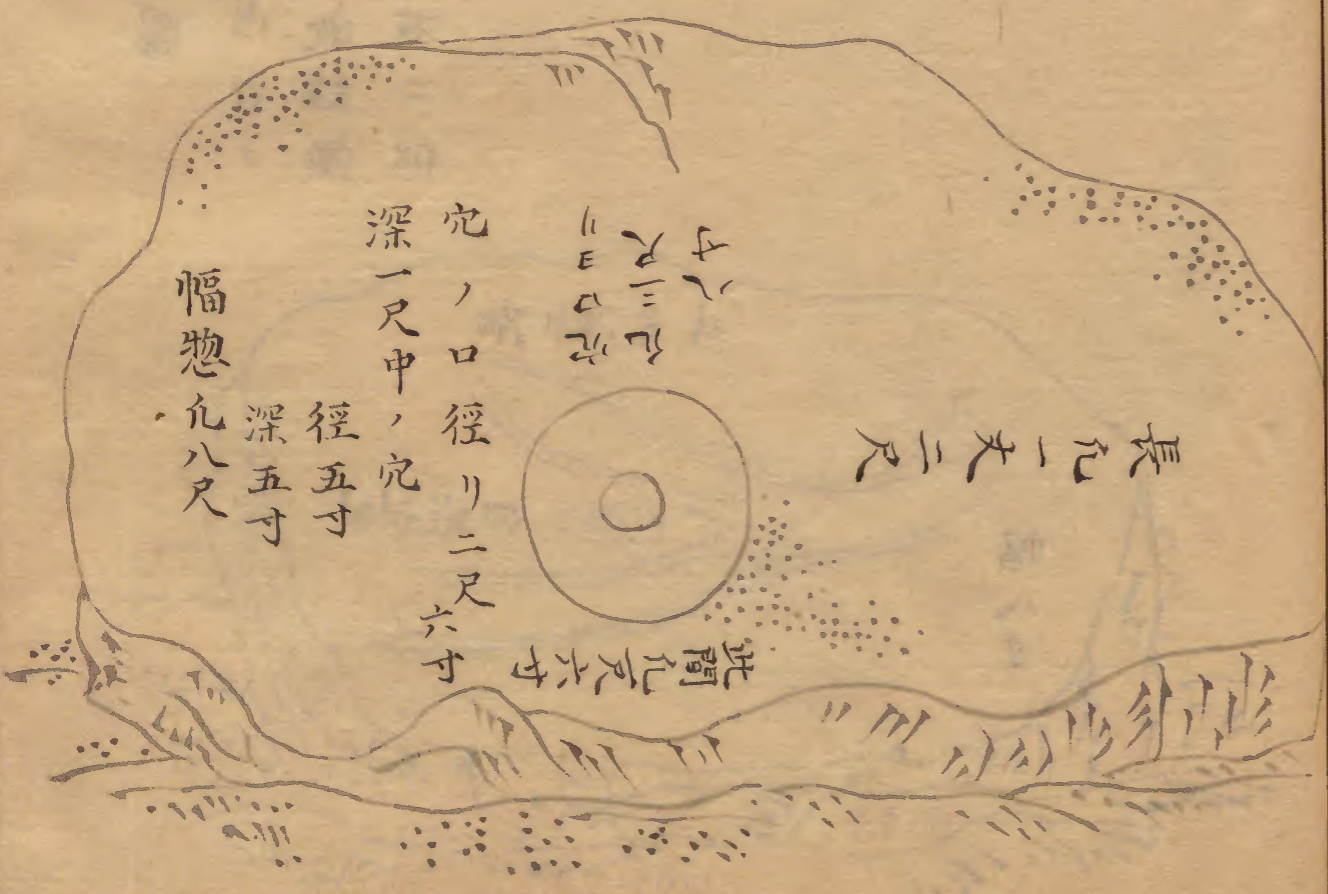


巨濃郡岩恒村ニ昔大杉山満願寺トイヘル大蘭若アリ今
 満願寺谷ト云リ今ハ礎ノミ残リテ境内ニ方ニ間許リノ
 小架ニ不動明王ヲ安置ス昔此ノ寺ノ鎮守ト云傳フ側
 古キ石ノ手水鉢アリ圖画ノ如シ往昔ノ寺領五町八段ト
 云ヘリ按ニ太平記神南合戦ノ時山名父子因幡勢多ク討
 レケル者共ノ名字ヲ書シルシ岩常ノ道場ニ送り其菩提
 ヲ吊ラハセラレケルト云ヘルハ此ノ寺ノ変ナルベキカ
 然レハ此寺顛ノ時代遠キ変化ニスエサレト残レル記
 録無ケレハ委キ莫知レ難シ事ハ郡郷ノ



弥勤寺塔礎之圖

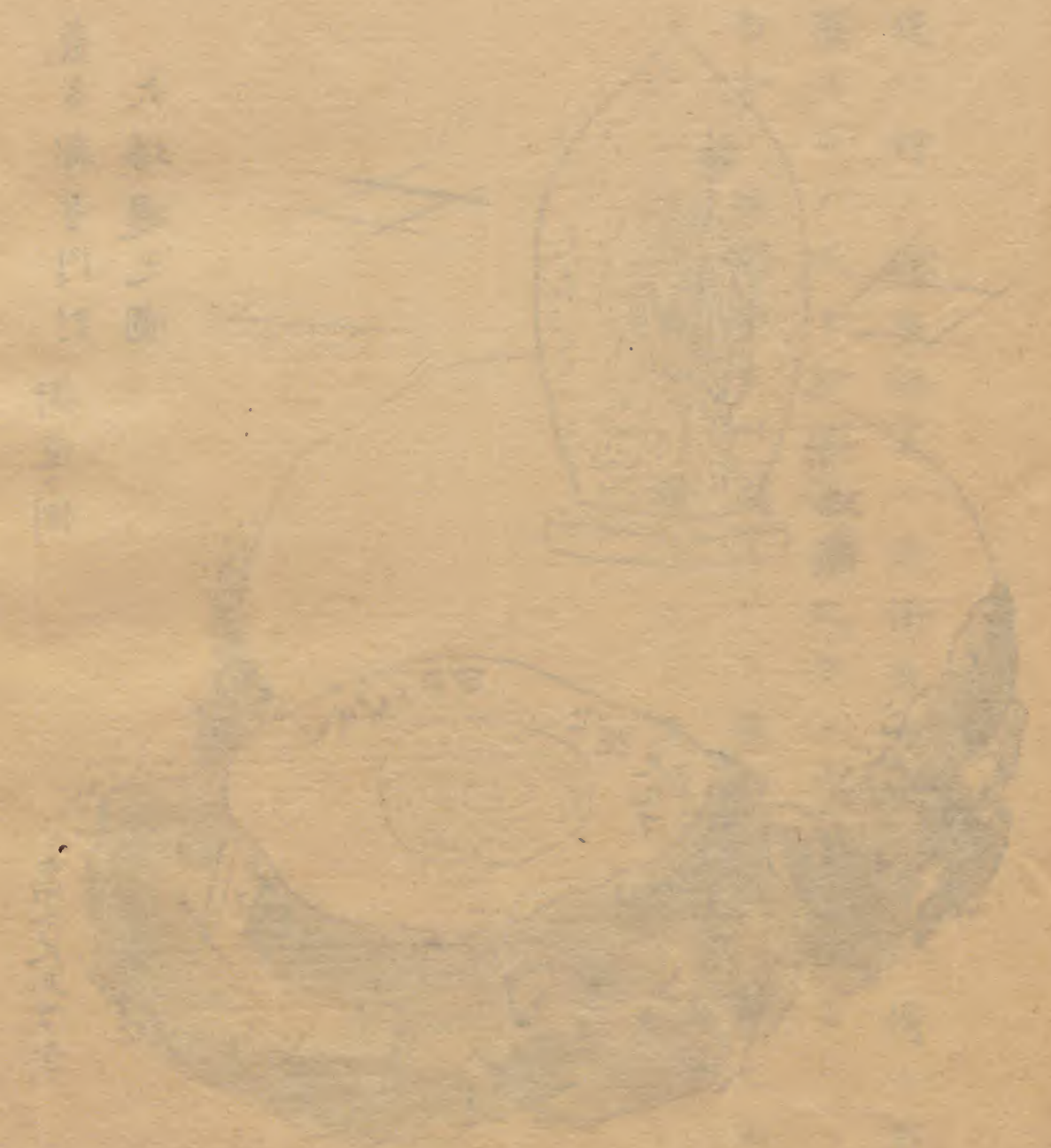
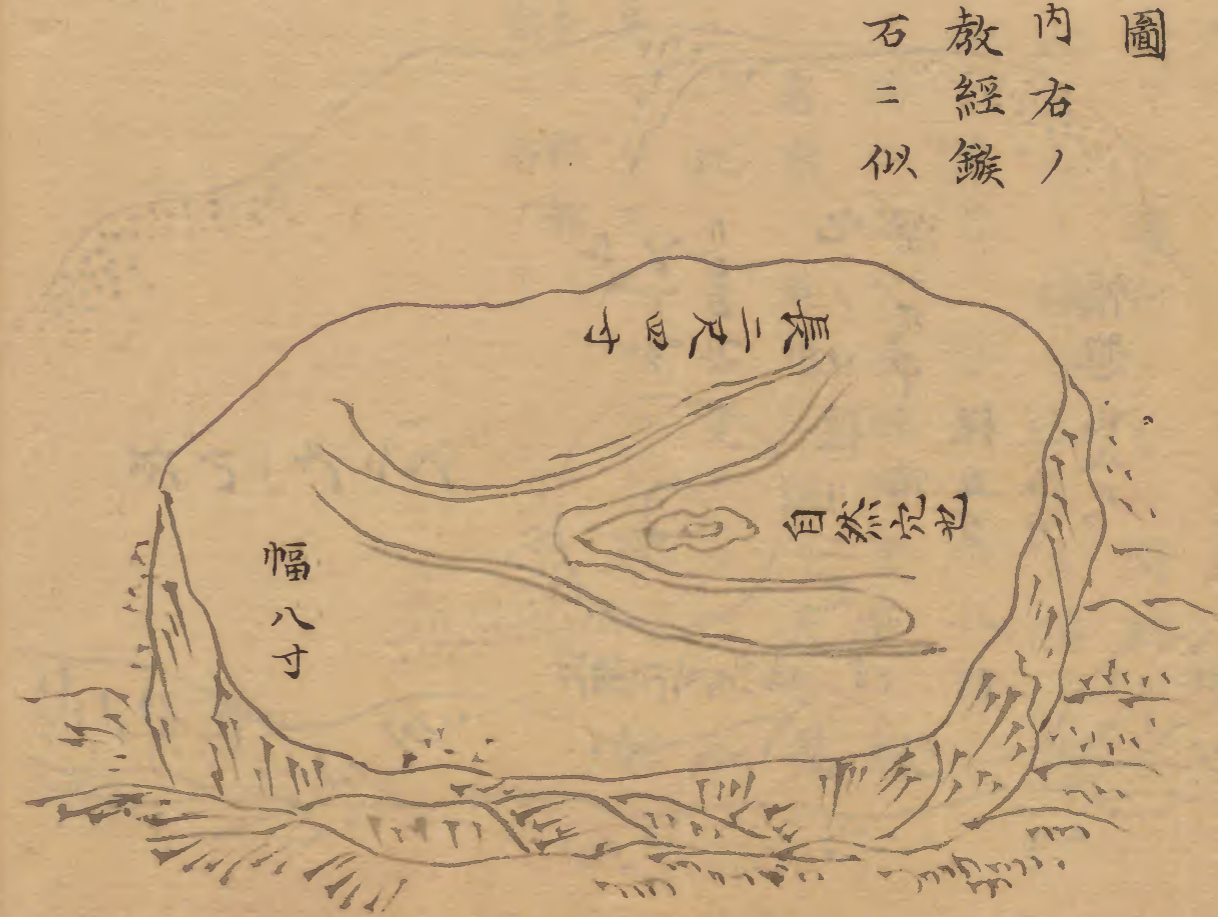
同郡宇治村ヨリ 町許
 東御湯ノ神社鳥居ノ内四
 五間東ニアリ往古此所ニ
 弥勤寺ト号ス伽藍アリシ
 時塔ノ礎ト云傳フ此辺圍
 中ニ古瓦數多アリ此塔ノ
 瓦ト云リ本尊弥勤菩薩ノ
 木像半身ナルモノ損ノ坑
 ノ中ニアリシカ近年何ト
 ナリシニヤ不見



能登守鑑研石之圖

同所御湯神社鳥居ノ内右ノ
方外ヨリ四目ノ石也教經鑑
研石ト云傳フ形状河石ニ似
タシ共實ハ青磁ナリ

中道寺
五箇東
東山
同



氣多郡寺内村
街道側
大塔礎之圖



右大塔之礎ハ村ノ程藥師堂ノ前街道ノ側ニアリ傍ラ石
地藏ヲ安置ス石ノ大サ如圖往昔此里ニ宝照寺ト云ヘル
大寺アル由今ノ藥師堂其旧跡ナリト當時ハ魏々タル大
寺ナリシトミエタリ其寺ノ礎ナリト云傳フ部ハ郡郷ノ

法華寺門柱礎之圖

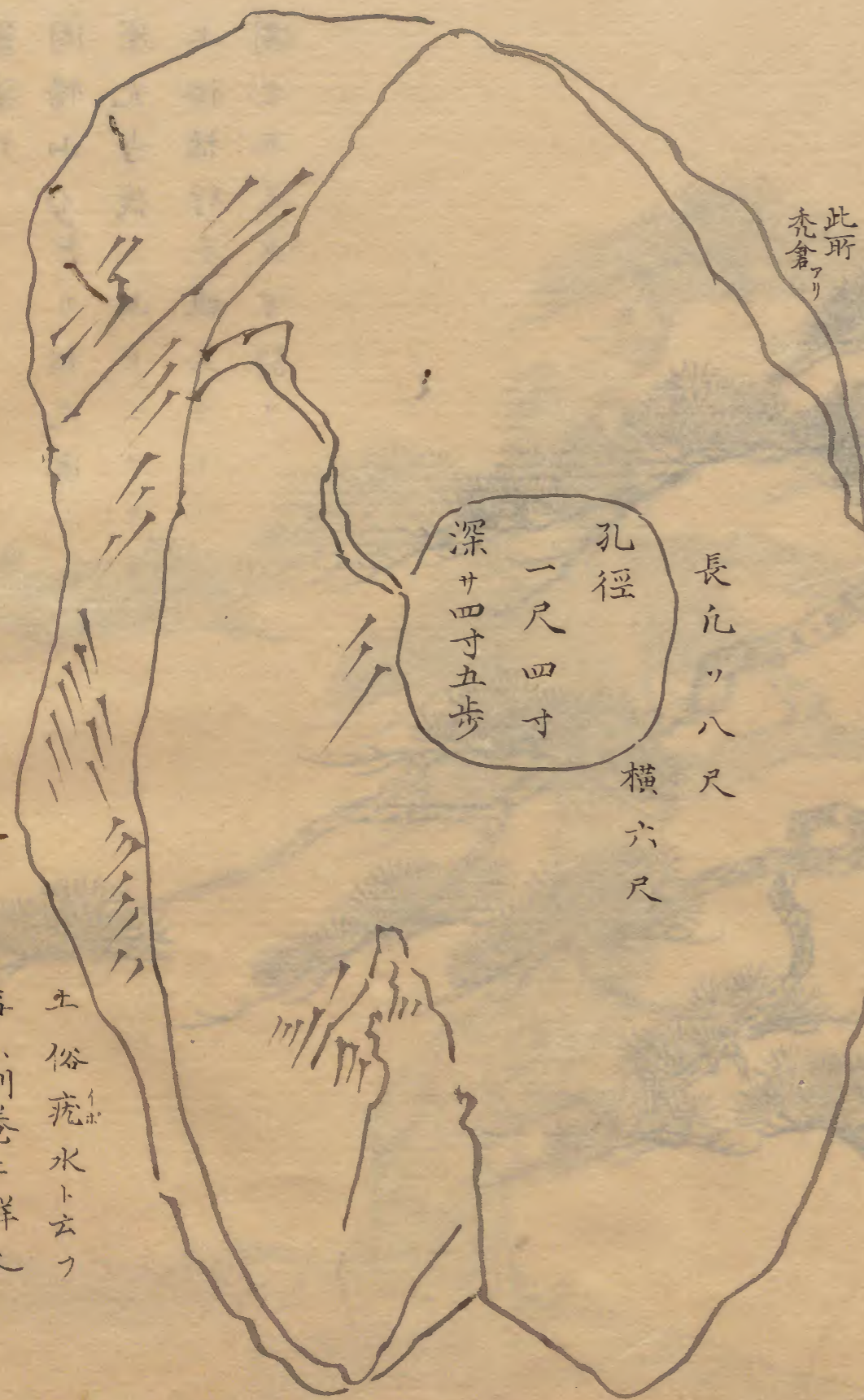
長二尺五寸
橫一尺七寸



右二圖スル手水鉢ハ法義郡法華寺村ノ百姓福田六兵衛
ト云者所持セリ是ハ往古當村ニ法華寺ト号スル蘭若
リ其門ノ礎ナリシト云傳ヘツリ圖画ノ如ク石面ノ圓相
ハ楹着ノ所ニテ三四分高ク彫起ツリ全躰蝕シ物舊ク
ルサマ言語道断殊勝也又此手水鉢ノ外ニモ此類ノ礎石
大小數多有テ皆是當時法華寺伽藍ノ礎ト云傳ヘテ貯
ヘ置ケルガ先年鳥取町外常忍寺建立ノ時殘石所望ニ因
テ皆ナ彼ノ寺ニ運送シテケレハ今ハ此ノ手水鉢一石ノ
ミ殘レリ其時或人云昔此里ニ法華寺ト云フ大寺アリシ
ハ當郡度木ノ郷ニ某ト云名僧アリ是レハ日蓮聖人ノ高
第ニテ此里ニ法華寺ト云フ寺ヲ建立シ即チ其寺ノ住持
トシテ繁昌シケル其礎ナリ是全ク法華宗門ニ因縁深キ
賜人^レ是^レ遍^編ニ高祖日蓮ヨリ惠^レアタヘ給^フナリトテ是非

ノ所望ニ因テ殘石悉ク送り遣シケルトゾカレバ木石何
ゾ云フニ不足神佛ノ用ニ財貨ヲ尽シテ不惜ハ古今世人
ノ通情ニソレハ何ノ寺ノ用ニ達スル^レ田土ニ在^レテ耕^ルノ
妨ナサニヨリハ所望ニアヘルハ時ノ幸ト謂ヘシ^ハ爾^ハア
レド法華寺トイヘハ今ノ日蓮宗ノ寺ト心得タルハ愚ニ
モ亦一笑スルニ絶^タリ悉^モ人王四十五代聖武帝御草創
ノ靈場ニテ近縣国分寺ハ僧寺法華寺ハ尼寺也^ハ是^レ国史ノ
所載分明ニシテ當州ノミナラス諸国ニ在^レテ紛乱ナシ事
ハ歷世考ニ詳ナリ

高草郡藥師寺
 此所 壳倉アリ
 今菅蒲山
 塔之礎圖
 菅蒲村ヨリ西ノ田土
 ノ中ニアリ



土俗 疣いぼ水ト云フ
 事ハ別卷ニ詳ニ

菅蒲村
因幡山イザリ松之圖
座光寺後ノ山上ニアリ
土俗橋行平植玉フツ
園^三之五尺五寸許リ



葛蒲村ニアル座光寺ハ古薬師寺トテ村ノ西榎田ト云フ
田ノ中ニあり土人古薬師寺ト云ヘリ當時ハ塔ノ礎ナリ
トテ如圖画盤石残り又因幡山ハ座光寺ノ後山ニテ松ト
一株古按當國名所因幡山ハ法美郡宇倍山ナリ別卷ニ當
松アリ
所モ因幡山ト云フハ橘行平朝臣當國下向ハ六六代十
一條帝御宇長徳三年ニ建保百首橘朝臣ノ歌ニイナハ
山雪ノ松風寒クシテムラ雲白ク出ル夜ノ月ト聞エタル
モアレハ此地大納言旧迹ナルヲ以テ後人其名ヲ設ケシ
ナラム歟

氣多郡

未用

辨慶谷



此石大サ
凡
六尺四方許

未用

法樂寺村ヨリ

東南へ五町餘入ル

谷ノ左リノ支谷ノ口ニ

一怪石ノリ三四歳許リノ

稚兒ノ足ノ裏形付タル石

也其ハ武藏坊辨慶ナル者

幼稚ノ時足跡ナリトテ其谷ヲ

辨慶谷ト土俗イフナリ按ニ此類石



國中所有ニアリ大小兒ノ足跡或ハ大夫草鞋ニテ踏込
 ミタルモアリ又掌ニテ摑シ如ク手指ハ跡有モアリ
 又或ハ馬蹄跡太刀ナドニテ切割シ跡或ハ文字ヲ彫タル
 ヤウノモノアリ當州ニ限ラス餘國ニモマ、多シ是皆天
 地自然ノ形子何ソ怪シトスルニ足ン



明治十年十月

加藤養正
 服部校

甲

甲

陽
秋
十
年
十
月

耶
蘇
香
五
六

